北　野　遺　跡

２０１３年

古代文化調査会

北　野　遺　跡

２０１３年

古代文化調査会

例　言

1．本書は、古代文化調査会が京都市北区東紅梅町において、株式会社エクセレントケアシステムによるグループホーム建設に伴い実施した北野遺跡（13S317）の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、株式会社エクセレントケアシステムより委託を受けた古代文化調査会の水谷明子が担当し、家崎孝治が補佐した。

3．調査にあたっては、京都市文化市民局文化財保護課の指導を受けた。

4．本書の編集・執筆は水谷がおこなった。

5．図面・遺物整理、製図は水谷が担当した。

6．本書で使用した方位及び座標の数値は世界測地系（新測地系）平面直角座標系Ⅵによる。

7．本書で使用した地図は、京都市都市計画局発行の2,500分の１の地図（衣笠山）、国土地理院発行の25,000分の１の地図（京都北部）を調整し、使用した。

8．土壌及び土器・瓦類の色調の表記は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。

9．遺構番号は実測図・写真ともに共通している。

10．発掘調査及び遺物整理に際して、下記の方々の御指導・御協力を得ることができた。記して感謝の意を表します。（所属・敬称略、五十音順）

家原圭太　今西増弘　宇野隆志　馬瀬智光　大川一則　奥井智子　梶川敏夫　西森正晃
長谷川行孝　堀　大輔　宮原健吾
（株）明輝建設　（株）伊藤工務店　（株）エクセレントケアシステム　（株）大高建設
（公財）京都市埋蔵文化財研究所

本 文 目 次

北 野 遺 跡

Ⅰ　調査の経緯…… 1

Ⅱ　遺　　構…… 3

Ⅲ　遺　　物…… 7

Ⅳ　ま と め…… 8

図 版 目 次

図版１　遺跡　１　調査区全景（東から）
　　２　柵１（東から）
図版２　遺物　土壙15・土壙５・精査中出土遺物

挿 図 目 次

図１　調査地点位置図……１
図２　調査地位置図……２
図３　調査区配置図……２
図４　南・東壁断面実測図……４
図５　遺構実測図……５
図６　柵１・柱穴２・３・11実測図……６
図７　土壙15・土壙５・精査中出土遺物実測図……７
図８　キリスト教関係出土遺物……９
図９　今回調査地とキリシタン墓碑分布図……10

表 目 次

表１　キリシタン墓碑一覧表……11

北　野　遺　跡

Ⅰ　調査の経緯

調査に至る経緯

調査地は京都市北区東紅梅町12である。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地・北野遺跡跡にあたる。2013年８月、当地に株式会社エクセレントケアシステムによるグループホーム建設の計画がなされ、工事に先立ち京都市文化財保護課が試掘調査を実施した。試掘調査の結果、地表下0.3mにおいて近世以降の遺構と共に北野遺跡の遺構が良好な状態で遺存していることが判明し、発掘調査の必要性が考慮されるに至った。京都市の指導の下、当調査会と施主との協議の結果、当調査会が発掘調査をおこなうことになり、調査は2013年10月上旬より開始することとなった。

調査経過

当該地は北野遺跡内の北東部に位置し、南西部には北野廃寺が拡がる。また、紙屋川を挟んで東には北野天満宮が位置する。北野廃寺は飛鳥時代に建立された寺院と考えられており、寺の寺名、創立、沿革については、広隆寺移建説、野寺・常住寺説がある。これまでの調査で瓦積み基

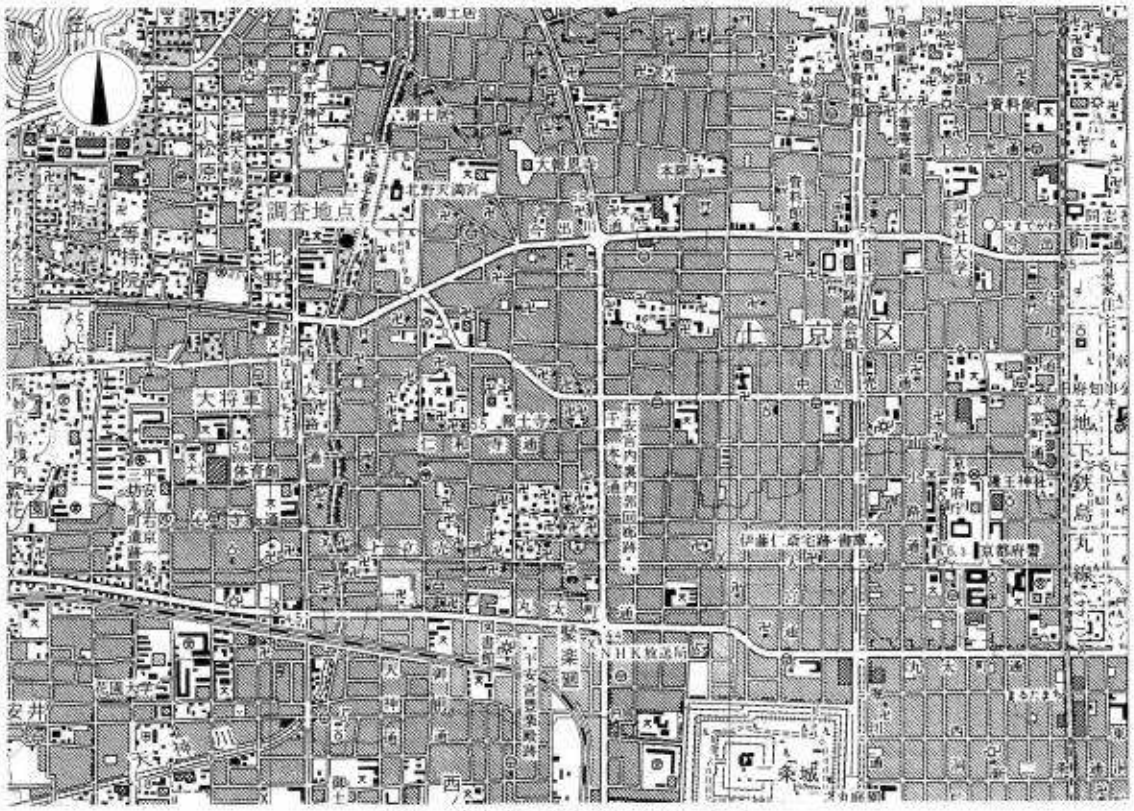


図１　調査地点位置図（1/25,000）

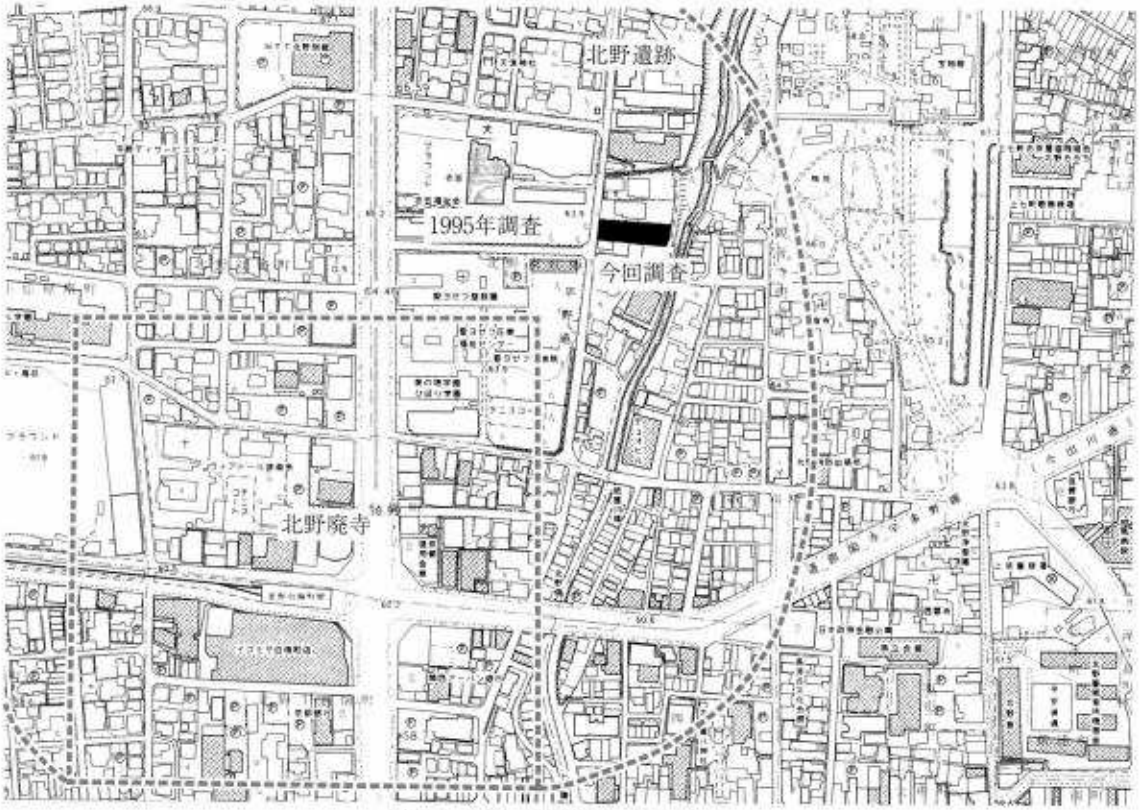


図２　調査地位置図（1/5,000）

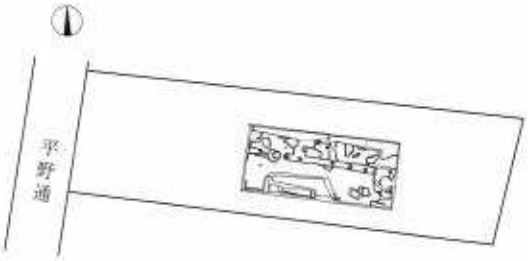


図３　調査区配置図（1/800）

壇（推定講堂跡）・築地状遺構・溝・土壙などが報告されている。[注1]

本調査地の近隣調査（図２）としては、1995年に当調査地のほぼ西に隣接する衣笠小学校の校舎建て替えに伴い発掘調調査[注2]が実施されている。検出した遺構は、飛鳥時代から奈良時代の溝、堰、柵、土壙、平安時代の寺院建築に関係した可能性のある建物、室町時代の宅地として土地活用されていたと考えられる溝、柵、垣塀、江戸時代の耕作に関係した溝、土壙が報告されている。

今回の調査においては、北野遺跡における土地活用と北野廃寺の広がりを確認することを念頭に置き、試掘調査の結果を踏まえ、機械力により盛土・撹乱層を除去し、調査に着手した。調査は2013年10月８日から2013年10月22日までの10日間実施した。調査面積は112㎡であった。

調査の方法としては、（公財）京都市埋蔵文化財研究所が作成した平面直角座標系Ⅵによる平安京の復原モデル60を使用し、調査区の北東角を原点（X－107,620、Y－24,320）とする、東西方向にアラビア数字を、南北方向にアルファベットを記号として付し、４ｍメッシュのグリッドを基本とする遺構遺物の記録をとる方法をおこなった。

Ⅱ 遺　　構

基本層序は、調査区全域に現代盛土が0.3～0.6mの厚さであり、その直下に褐色砂泥層の地山となる。調査区の多くの部分が既存建物により著しく削平され、撹乱を受けている。

遺構は近世以降のもので、土壙、柱穴がある。以下、主要な遺構について述べる。

柵1（柱穴6・8・9・10）（図5・6・図版1の1・2）

調査区中央部に位置する東西方向に並ぶ柱穴である。柱穴6は径0.45m、深さ0.05mを測る。埋土は黒褐色砂泥である。柱穴8は径0.4m、深さ0.07mを測る。埋土はオリーブ褐色砂泥である。柱穴9は径0.5m、深さ0.03mを測り、やや楕円形を呈する。埋土は黄褐色砂泥である。柱穴10は径0.4m、深さ0.04mを測る。埋土は黄褐色砂泥である。

柱穴1（図5・図版1の1）

調査区西端部に位置する柱穴である。径0.2m、深さ0.4mを測る。埋土は黒褐色砂泥である。

柱穴2（図5・6・図版1の1）

調査区西端部に位置する柱穴である。径0.3m、深さ0.06mを測る。埋土はオリーブ褐色砂泥である。

柱穴3（図5・6・図版1の1）

調査区西端部に位置する柱穴である。径0.3m、深さ0.1mを測る。埋土はオリーブ褐色砂泥である。

柱穴11（図5・6・図版1の1）

調査区中央部北寄りに位置する柱穴である。径0.35m、深さ0.15mを測る。埋土はオリーブ褐色砂泥である。施釉陶器が出土している。

土壙4（図5・図版1の1）

調査区西端部に位置する土壙である。東西長1.1m、南北最大長0.5m、深さ0.1mを測り、楕円形を呈する。埋土は暗オリーブ褐色砂泥である。

土壙5（図5・図版1の1）

調査区西部に位置する土壙である。東西長0.85m、南北長0.75m、深さ0.1mを測る。埋土は暗オリーブ褐色砂泥である。磁器片と瓦が出土している。

土壙15（図5・図版1の1）

調査区東端部に位置する土壙である。南北長2.5m、東西長2.2m、深さ0.6mを測り、形状は不定形である。土器や陶器片と共に瓦や磚が出土している。近現代。

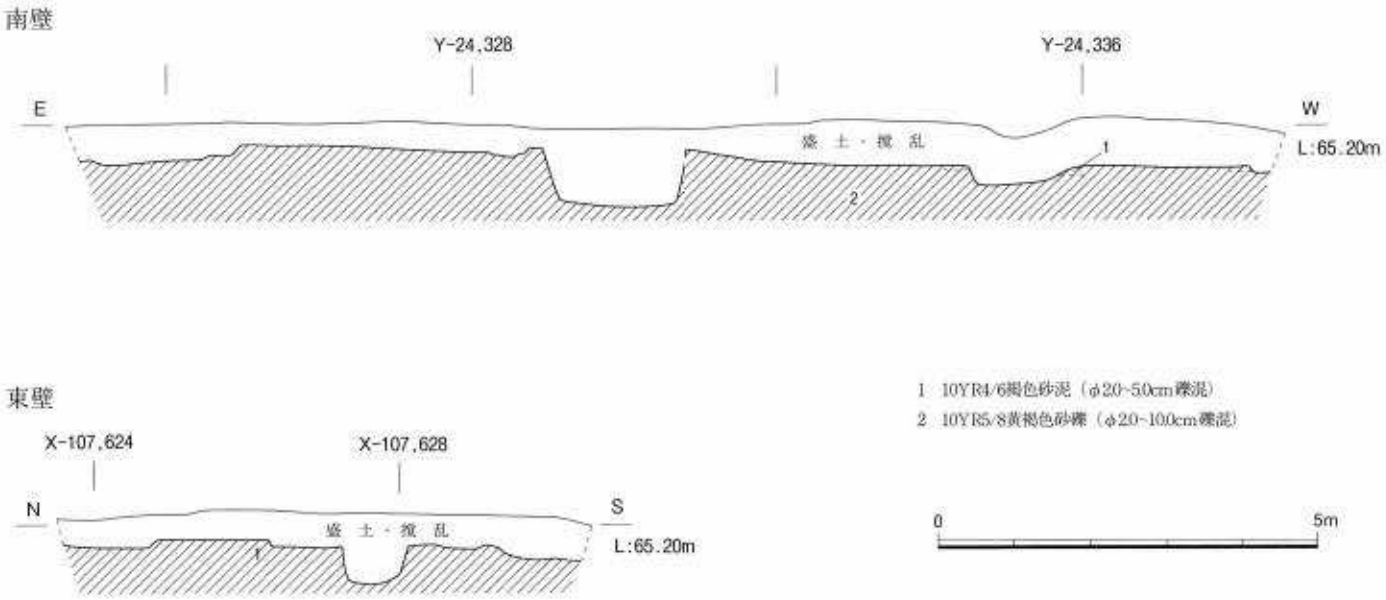


図4　南・東壁断面実測図（1/100）

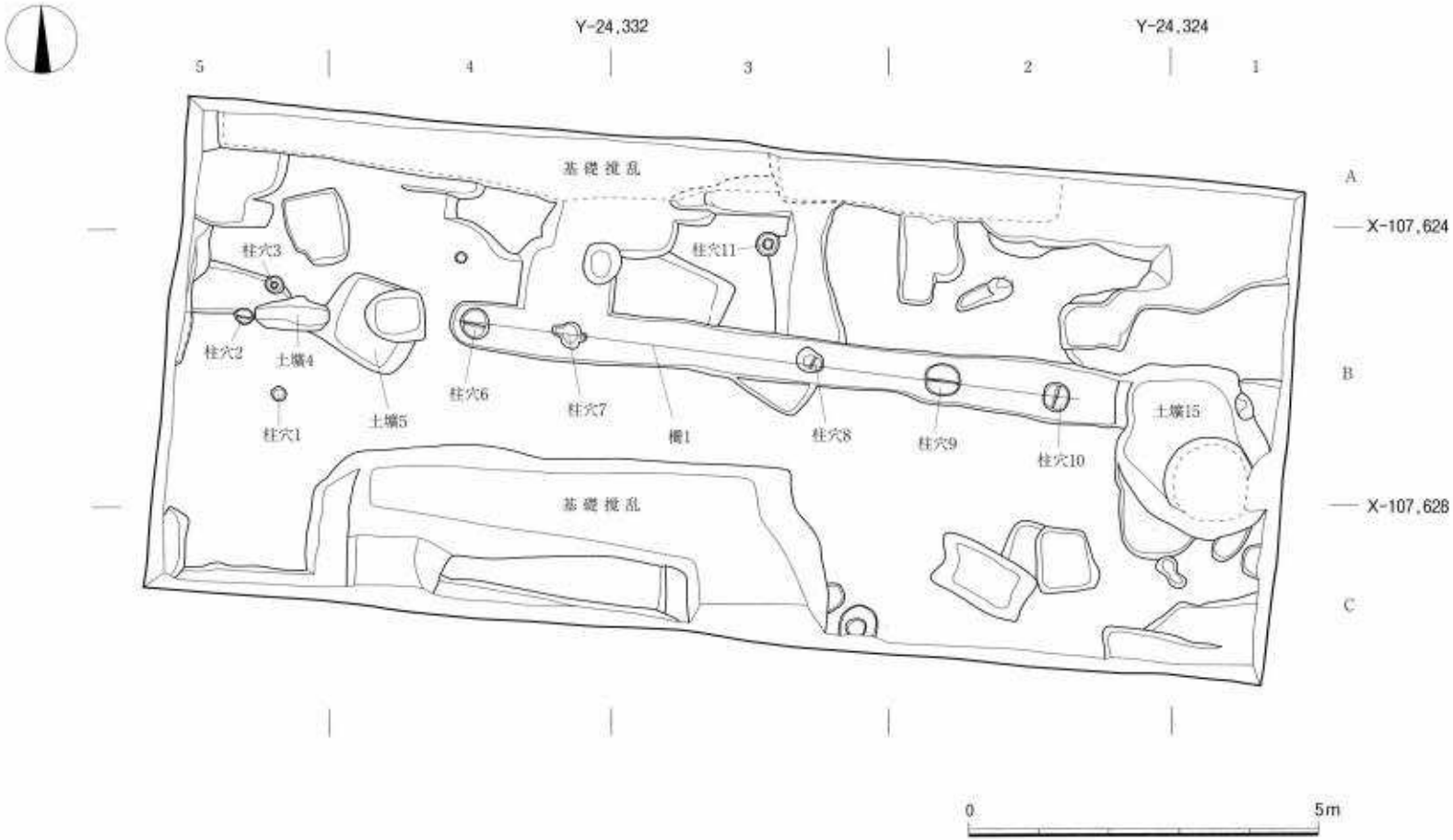


図5　遺構実測図（1/100）

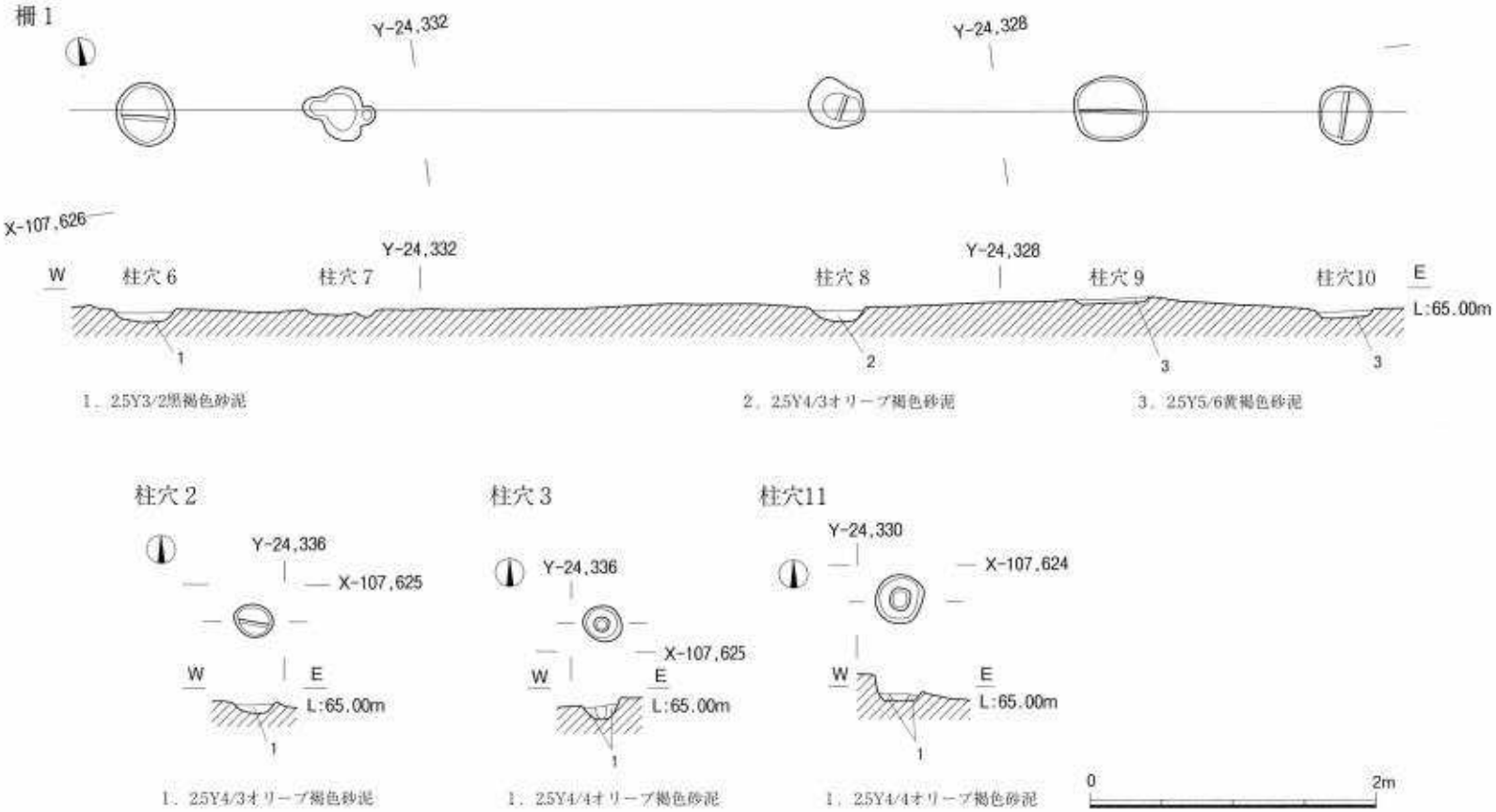


図6　柵1・柱穴2・3・11実測図（1/50）

Ⅲ 遺　　物

出土した遺物は整理箱に２箱ある。時代は室町時代から近現代までのものがある。遺物の種類には土師器、須恵器、瓦器、国産陶磁器、輸入陶磁器、瓦類、金属製品などがあるが、小破片のため実測できる点数が少なかった。以下主要な遺物について概述する。

なお、時代区分は平安京の土器編年[注3]をもとにおこなう。

土壙15出土土器（図７・図版２）

土師器皿Ｎ（１）、土師器皿Ｓ（２）、磁器蓋（３）、美濃瀬戸系灯明皿（４）、染付磁器碗（５・６）がある。１は口径8.2cm、残存高1.2cm、にぶい橙色を呈する。口縁端部の断面が三角形に近い。２は口径8.2cm、残存高1.9cm、にぶい橙色を呈する。１・２ともに小片の為、口径が前後する可能性がある。３は上面に金彩で絵文様を施す。小片であるが１カ所穿孔があり、急須の蓋かと考えられる。４は半陶磁器の灯明皿で、底部外面は削りを施し内面にのみ施釉する。江戸時代後期以降。５は口縁端部先端のみ呉須が確認できる。６はプリントの染付磁器碗で、明治時代以降のものである。

土壙５出土土器（図７・図版２）

鉄絵磁器碗（７）がある。口径10.1cm、残存高4.5cmである。外面に鉄釉で絵文様を施す。

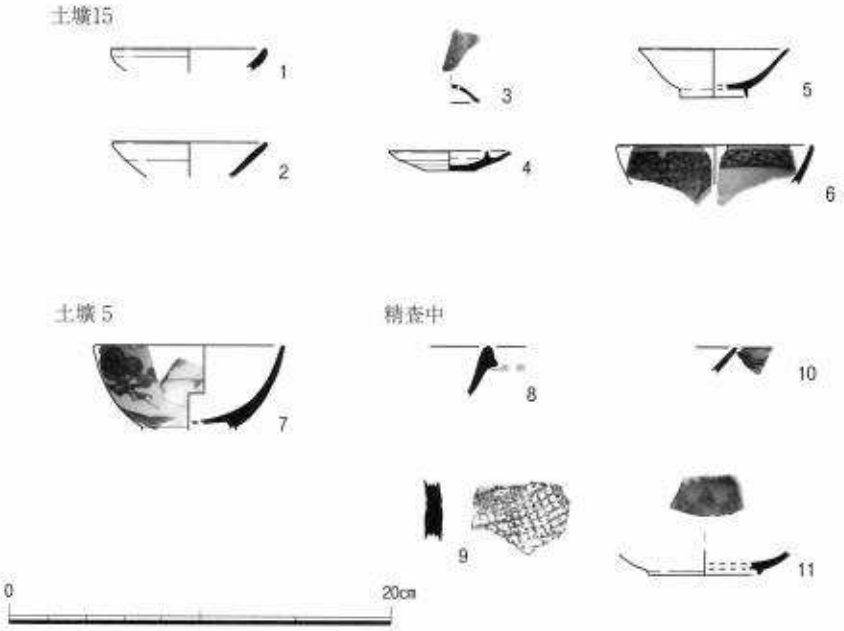


図７　土壙15・土壙５・精査中出土遺物実測図（1/4）

精査中出土土器（図７・８・図版２）

土師器鉢（８）、須恵器甕（９）、染付磁器碗（10）、染付磁器皿（11）がある。８は内外面ともにナデ調整を施し、体部外面は煤けている。９は甕の体部の一部である。内面は粗い板ナデ、外面は叩き調整を施す。10は碗口縁の一部のみである。11は底径5.8cm、残存高1.3cmの皿である。高台端部を除き、内外面ともに施釉する。やや青味を帯びた地肌で、底部内面に十字架を含む絵付けが施されている。当調査地南の一条通紙屋川沿いの一条橋西側付近でキリシタン墓碑が２基出土しており、当地にもキリスト教に関係した存在を推察することができる。

Ⅳ　ま　と　め

今回の調査においては、既存建物により著しく撹乱を受けていたが、近世以降の土壙や柱穴を検出した。

今回の調査地である北野遺跡は、その遺跡範囲内に北野廃寺を含む。北野廃寺はこれまで複数回の発掘調査が実施され、古墳時代から室町時代にかけての遺構を検出している。この北野廃寺は飛鳥時代に建立された寺院と考えられており、寺の寺名、創立、沿革については、広隆寺移建説、野寺・常住寺説がある。調査報告の中にも北野廃寺関連と考えられる瓦積み基壇（推定講堂跡）・築地状遺構・溝・土壙、「鵤室」と墨書された灰釉陶器皿、野寺関連と考えられる土壇などが報告されているが、その創立や拡がりについては明確になっていない。

北野遺跡内で1995年に実施された調査では、飛鳥・奈良時代から江戸時代までの遺構が報告されており、中でも平安時代初期と考えられる寺院建築に関係した可能性がある回廊状建物などは、野寺（常住寺）との関連が推察できる。その後、室町時代に入り、調査地北に位置する平野神社に関わる人達の宅地として、溝・柵・垣塀などの施設が造られるなどの土地利用を経て、江戸時代には耕作地へと変遷した経過がうかがえる。

キリスト教関係出土遺物について

今回の調査で底部内面に十字架を含む絵付けが施されている染付皿の小片が出土した（遺物番号11・図７・８）。最大幅4.2cm、最小幅2.2cmを測る皿の底部で、地肌はやや青味を帯びている。十字架とみられる絵柄を含むことから、キリスト教関係者が用いた皿と考えられる。絵柄の内容としては、中央上部に十字架を配し、その左右に葉を対称で放射状に描く。その斜め下には、左に鳥の翼と尾の一部、右に花の絵の一部が見て取れる。鳥は鳩かと考えられる。鳩はキリスト教においては三位一体（父なる神、神の子、聖霊）の聖霊のシンボルとされている。右に描かれた花はキリスト教においては純潔の象徴として用いられるユリの花であるとも考えられるが定かではない。この絵柄は皿の大半が欠損しているため詳細は不明だが、紋章のような図案ではないかと推察できる。

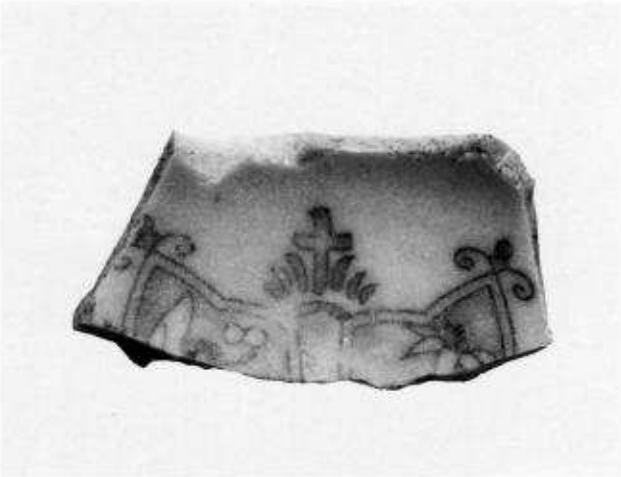


図８　キリスト教関係出土遺物

このキリスト教に関係すると考えられる遺物の出土から、今回の調査地と京都におけるキリスト教との関連を考えていくこととする。

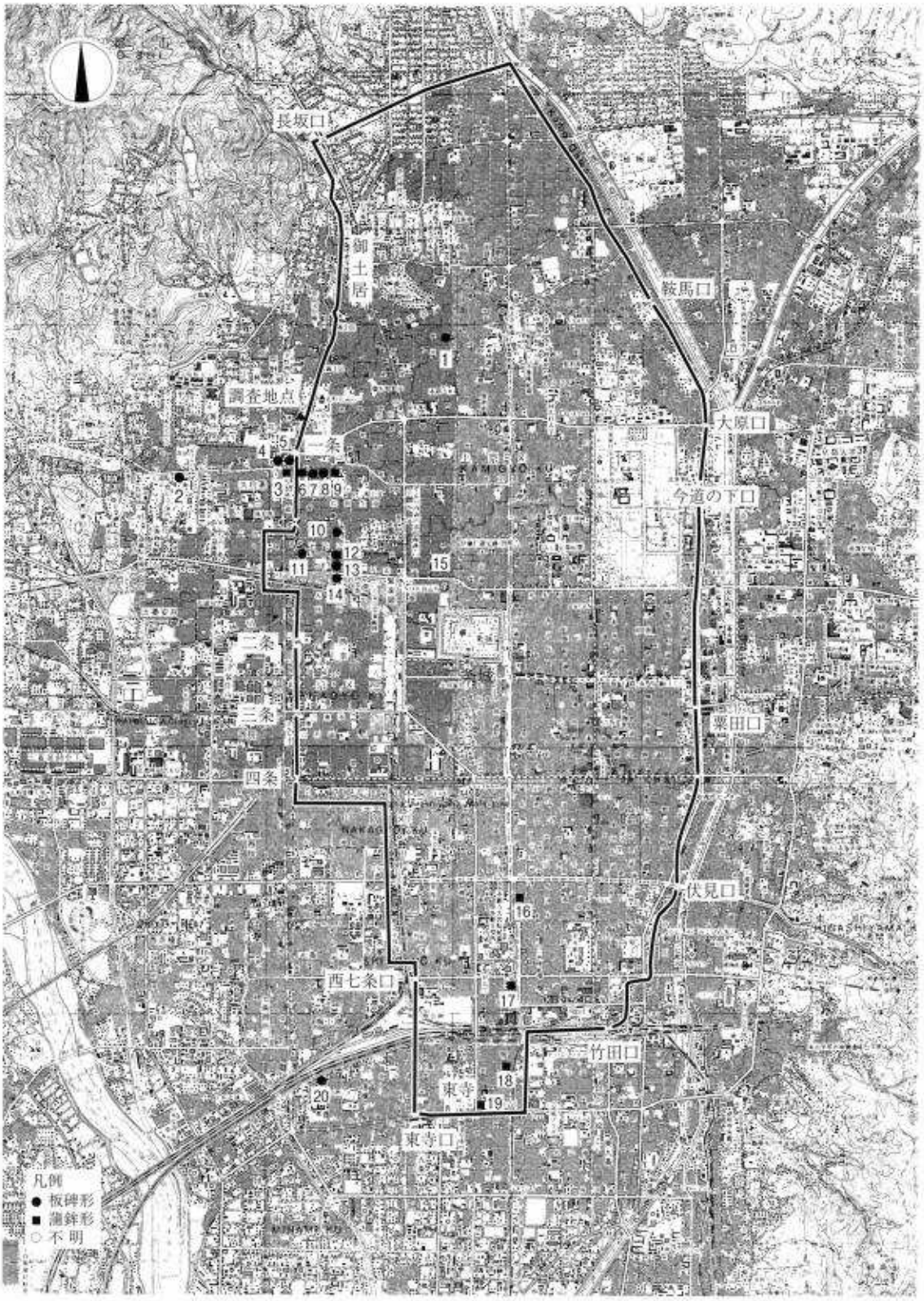
京都におけるキリスト教の伝来

キリスト教が日本において最初に布教されたのは、九州地方で1549年（天文18）のことである。その後、当時の権力構造の中心であった京都及び五機内に布教活動を進め、京都にキリスト教が伝わったのはフランシスコ・ザビエル一行が上洛した1551年（天文20）である。しかしこの頃の京都は天文法華の乱後の復興の途上で、幕府は事実上崩壊、朝廷も衰えており政情は不安定で、その様子に失望したザビエルは11日間で京都を去った。その後、1559年（永禄２）以降ガスパル・ビレラが京都に入り布教に取り組んだ[註4]。当初、京都の人々に理解されにくかったキリスト教だったが、その頃京都において勢力のあった三好長慶や松永久秀と交渉を行い、将軍足利義輝とも謁見し布教の許可を得て信者数を増やしていく。その後は戦乱などにより布教活動が停滞することもあったが、織田信長が上洛し、有力寺社勢力抑制のためキリスト教を優遇したことにより、京都でのキリスト教伝道は大きく進展した。

京都のキリシタン墓碑

キリシタン墓碑とは、日本におけるキリスト教徒の墓碑である。その形状は花崗岩で造られた蒲鉾形と、斑レイ岩で造られた板形のものがある。その表面には十字架や教会の紋章であるIHS、被葬者の洗礼名、年号などが刻まれている。

京都において発見されたキリシタン墓碑は20点あり、その出土地点は、西大路通りを軸とした北野から大将軍周辺と、東寺の周辺に多いことがわかる（図９・表１）[註5]。これはその２カ所の地域がキリシタンの拠点もしくはキリシタンの庇護者がいたことと関連が深いと考えられる[註6]。これらの墓碑に記された年号は、不明なものを除くと1602年（慶長７）から1613年（慶長18）の12年間に限られる。これは信長の死後、1587年（天正15）年に発せられた豊臣秀吉のバテレン追放令



＊丸川義広「近世京都のキリシタン墓碑」図5に加筆・修正を施し使用

図9　今回調査地とキリシタン墓碑分布図（1/50,000）

表1　キリシタン墓碑一覧表

番号	名称・出土地	銘　　文	年号（西暦）	性別	型式・石材	法量（cm）	文献・保管
1	真教寺墓碑 上京区智恵光院通芦山寺上る 真経寺境内	「十」 「慶長七六月五日」 「尼張のまりや」 「さん阿ぼりなりよの御祝日」	慶長７年６月５日 （1602.7.23）	♀	板碑形 （円頭） はんれい岩	高さ36.0 以上 幅　19.5 厚さ10.0	京都の歴史４口絵 解説P24 京都国立博物館
2	等持院南町墓碑 北区等持院南町	「十」 「御出世以来千六百八年戊申七月八日」 「さんちょ」 「波々泊部右近将監」	慶長13年７月８日 （1602.8.18）	♂	蒲鉾形 花崗岩	高さ39.3 幅　35.4 厚さ40.9	京都府報告５ 京大報告7E 小川の土橋の台石 京都大学文学部博物館
3	椿寺（地蔵院）墓碑 北区大将軍川端町 椿寺境内	不明	不明	不明	蒲鉾形 花崗岩	高さ40.9 幅　36.3 奥行52.1	京都府報告５ 京大報告7F 前面をくり抜き手水鉢に転用
4	一条紙屋川（１）墓碑 北区大将軍川端町一条橋西入る	「十　ＩＨＳ」 「慶長九年七月廿二日」 「留野上ちん妥満りいな」 「さん路加園す満んへれ」	慶長９年７月22日 （1604.8.17）	♀	板碑形 （円頭） はんれい岩	高さ48.8 幅　21.7 厚さ13.5	桃山時代の京都No.84 立会調査で出土 京都市埋蔵文化財研究所
5	一条紙屋川（２）墓碑 北区大将軍川端町一条橋西入る	「十　ＩＨＳ」 「慶長十二年」 「□麻□」 「十二月一日」	慶長12年12月１日 （1608.1.18）	？	板碑形 （円頭） はんれい岩	高さ46.3 幅　20.5 厚さ11.5	桃山時代の京都No.85 立会調査で出土 京都市埋蔵文化財研究所
6	成願寺（１）墓碑 上京区一条通御前西入る 成願寺境内	「十　ＩＨＳ」 「慶長十四年」 「いし　るしや」 「五月三日」	慶長14年７月３日 （1609.8.2）	♀	蒲鉾形 花崗岩	高さ40.9 幅　36.3 奥行59.0	京都府報告１ 京大報告7B 底をくり抜き手水鉢に転用 京都大学文学部博物館
7	成願寺（２）墓碑 上京区一条通御前西入る 成願寺境内	「十　ＩＨＳ」 「慶長十八癸丑九月二日」 「東之寿竜」 「田すさん(田)て満りや」 「御出世以来千六百拾三」	慶長18年９月２日 （1613.10.15）	♀	板碑形 （主頭） はんれい岩	高さ35.5 幅　27.0 厚さ10	京都の歴史４ 口絵写真底部に突起あり 京都国立博物館
8	成願寺（３）墓碑 上京区一条通御前西入る 成願寺境内	「十」 「慶長十一年」 「内まるた」 「正月晦日」	慶長11年１月30日 （1606.3.8）	♀	板碑形 （円頭） はんれい岩	高さ43.6 幅　17.4 厚さ　？	京大目録２　212 京都大学文学部博物館
9	成願寺（１）墓碑 上京区一条通御前西入る 成願寺境内	不明	不明	不明	蒲鉾形 花崗岩	高さ44 幅　37 奥行61.5	前面をくり抜き手水鉢に転用 京都国立博物館
10	御前上ノ下立売墓碑 上京区御前通上ノ下立売上る 仲之町	「十」 「慶長十四年」 「流しや」 「十二月十四□」	慶長14年12月14日 （1610.1.8）	♀	板碑形 （円頭） はんれい岩	高さ27.5 以上 幅　20.8 厚さ12.0	史料京都の歴史１ P356 下半分は欠損 京都市歴史資料館
11	浄光寺跡墓碑 上京区天神筋通下立売上る 浄光寺跡	「十　ＩＨＳ」 「慶長八年廿八日」 「□をのはうろ」 「雪のさんたまりやの祝日」	慶長８年６月28日 （1603.8.5）	♂	板碑形 （円頭） はんれい岩	高さ45.4 幅　22.7 厚さ12.1	京都府報告１ 京大報告7C 京都大学文学部博物館
12	延命寺（１）墓碑 上京区御前通下立売下る 延命寺境内	「十」 「慶長十三年三月十日」 「平賀太郎左衛門まこい櫂す」 「さんおのりよの日」	慶長13年３月10日 （1608.4.24）	♀	板碑形 （円頭） はんれい岩	高さ39.3 幅　17.2 厚さ10.9	京都府報告１ 京大報告7A-1 京大目録213b 京都大学文学部博物館
13	延命寺（２）墓碑 上京区御前通下立売下る 延命寺境内	「十」 「慶長十五年十一月七日」 「小川あふきやみしや」 「さんとめいあほすとろの日」	慶長15年11月７日 （1610.12.21）	♀	板碑形 （円頭） はんれい岩	高さ47.8 幅　21.2 厚さ12.1	京都府報告１ 京大報告7A-2 京大目録213c 京都大学文学部博物館
14	延命寺（３）墓碑 上京区御前通下立売下る 延命寺境内	「十」 「慶長七年」 「あふきやの満るた」 「九月十一日」	慶長７年９月１？ （1602.10-11.）	♀	板碑形 （主頭） はんれい岩	高さ39.3 幅　18.1 厚さ　6.6	京都府報告１ 京大報告7A-3 京大目録213a 京都大学文学部博物館
15	松末寺墓碑 上京区智恵光院裏門出水下る 松林寺境内	「慶長八年十二月廿四日」 「さんた　ぱうら」	慶長８年12月24日 （1604.1.25）	♀	不明	不明	京都の歴史４ P485 上の文献では「ぱうろ」
16	安養院墓碑 下京区醒ケ井五条 安養院境内	「十」 「・・・」（慶長か？） 「□□□」 「・・・」	不明	不明	蒲鉾形 花崗岩	高さ34 幅　34 奥行45	京都の歴史４口絵 図174 京都国立博物館
17	下魚棚堀川西墓碑 下京区下魚棚通堀川西入る	「十」 「慶長十八年」 「前るしや」 「三月三日さんかよの日」	慶長18年３月３日 （1613.4.22）	♀	蒲鉾形 花崗岩	高さ32.5 幅　28.0 奥行38.5	京大目録２　220 京都大学文学部博物館
18	西福寺墓碑 南区針小路堀川東入る 西福寺境内	「十」 「出世千六百(八？　)年」 「慶ちゃう　戊申」 「うすらい　いさへ流」 「さんとめいの（パ？）□□」 「慶ちゃう　戊申」	慶長13年11月１？ （1608.12.？）	♀	蒲鉾形 花崗岩	高さ29.3 幅　32.4 奥行43.9	京都府報告５ 手水鉢の台石 京都大学文学部博物館
19	旧九条小学校墓碑 南区西九条川原城町	「十」 「里安」 「い茶」 後面「十」「同女い林も」 「女」	なし	♀	蒲鉾形 花崗岩	高さ31.5 幅　33.9 奥行46.3	京都府報告17 敷地内より出土 京都大学文学部博物館
20	西寺南墓碑 南区唐橋平垣町	「十」 「慶長十四年」 「てき善あん」 「八月十三日」	慶長14年８月13日 （1609.9.11）	♂	板碑形 （主頭） はんれい岩	高さ46.1 幅　20.6 厚さ　6.6	京都府報告５ 京大報告7D 小溝の石垣に転用 京都大学文学部博物館

参考文献　京都府報告1　註６、京都府報告5　註７、京大報告７　註８、京都府報告17　註９、京大目録２　註10、京都の歴史４　註11、桃山時代の京都　註３、史料京都の歴史　１『史料京都の歴史』１　概説　平凡社　1991年

＊丸川義広「近世京都のキリシタン墓碑」表１・２を修正

から始まるキリシタンの追放・迫害と関係がある。宣教師・信者に対する大規模な迫害は1596年（慶長元）の「二十六聖人の殉教」と呼ばれる処刑に始まる。しかし、その後は徳川と豊臣の東西争いで一時的にキリシタンへの弾圧が緩む。そして徳川幕府が基礎を固め、1612年（慶長17）に幕府直轄領のみを対象としていた禁教令を発し、翌1613年（慶長18）には全国へ発布され、その影響が京都にも及ぶ[註7]。京都のキリシタン寺院は焼き払われ、信者には拷問を加え改宗を迫った。そして、1619年（元和５）にキリスト教徒60余人が七条河原で処刑され、京都における公然としたキリシタンの活動は終わりを迎えた。京都のキリシタン墓碑は徳川と豊臣の争いによりキリシタン弾圧が一時的に緩んでいた時期に製作されたものである。

京都で発見されたキリシタン墓碑のすべてが元の位置を保ち出土したとは考えにくく、分布地点はあくまでも発見された場所である。しかしおおよその出土地点の傾向を見出すものとして、考察の対象になるのは間違いない。キリシタン墓碑分布地点である北野から大将軍にかけてと、東寺周辺はおそらくキリシタンの拠点あるいはその庇護者がいたと考えられる。今回の調査地はそうしたキリシタン墓碑分布地点のすぐ北に位置し、１点のみだがキリスト教との関連を推察できる遺物が出土している。本調査地もキリスト教と関わりのあった存在の可能性を指摘できるのではないだろうか。

本調査では北野遺跡における土地利用の変遷と、北野廃寺跡の拡がりを確認することを念頭において調査を実施した。しかしながら今回の調査では削平による攪乱が著しく、また検出した遺構も少なかった為、その様相を窺い知ることはできなかった。今後の調査で北野遺跡の変遷、北野廃寺の創立とその範囲が明らかになることを期待したい。

註１　『史料 京都の歴史 北区６』平凡社　1993年。
『北野廃寺　京都市埋蔵文化財研究所調査報告第７冊』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1983年。
『北野廃寺発掘調査概報』京都市文化観光局・（財）京都市埋蔵文化財研究所　1987年。
『北野廃寺・北白川廃寺発掘調査概報』京都市文化観光局　1992年。

註２　『平成６年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1996年。

註３　小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要　第３号』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1996年。

註４　ルイス・フロイス著／松田毅一・川崎桃太訳『日本史』１　第６章（第１部25章）　中公文庫　2000年。

註５　丸山義広「近世京都のキリシタン墓碑－一条紙屋川出土資料の紹介をかねて－」（『杉山信三先生米寿記念論集　平安京歴史研究』杉山信三先生米寿記念論集刊行会　1993年）から加筆修正し、転載して使用。

註6　ルイス・フロイス著／松田毅一・川崎桃太訳『日本史』2　第43章（第1部101章）　中公文庫　2000年。

註7　1612年（慶長17）に発布された禁教令が翌年全国に広がったものの、当時の京都所司代板倉勝重が禁教令の施行を躊躇していた。しかし、江戸から大久保忠隣が上使として派遣され、京都においてキリシタン弾圧の指揮をとり、キリシタンへの迫害が本格化した。

報告書抄録

ふりがな	きたのいせき
書　名	北野遺跡
副書名	
巻　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	水谷明子
編集機関	古代文化調査会
所在地	〒658-0032　神戸市東灘区向洋町中１丁目４番地125-1404
発行年月日	2013年３月31日

所収遺跡	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
北野遺跡	京都市 北区 北野 東紅梅町 12	26100	160	35度 01分 46秒	135度 43分 59秒	2013.10.8 ～ 2013.10.22	112㎡	グループホーム建設

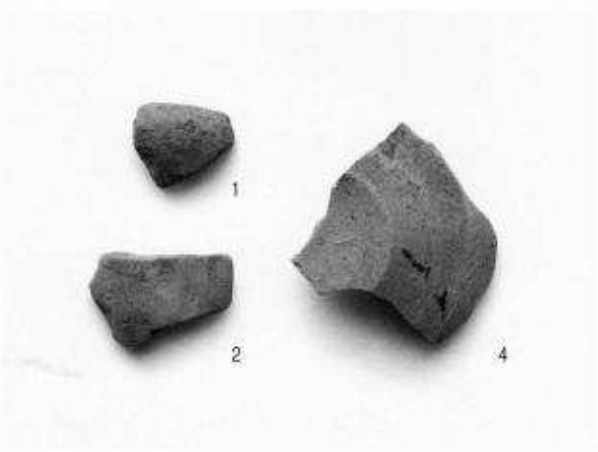
所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北野遺跡	集落跡	鎌倉時代 ～ 明治時代	土壙、柱穴	土師器、国産陶磁器、輸入陶磁器	

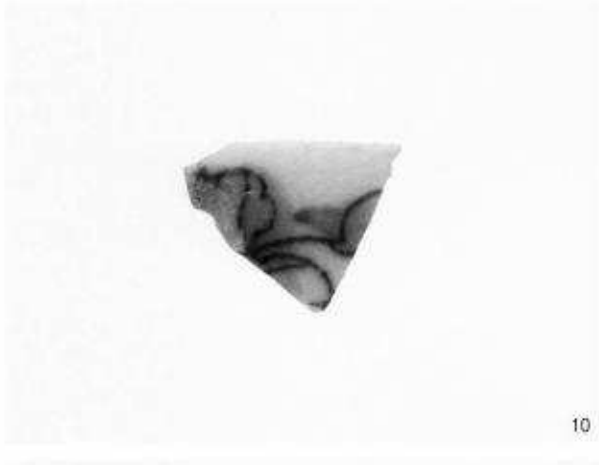
	Aランク点数（箱数）	内　訳	Bランク（箱数）	Cランク（箱数）	出土箱数合計
点数及び箱数	11点 （１箱）	土師器３点、須恵器１点、国産陶磁器６点、輸入陶磁器１点	１箱	0	２箱

図　　版

1　調査区全景（東から）

2　柵１（東から）





土壙15（1～4・6）・土壙5（7）・精査中（8・10・11）出土遺物

北　野　遺　跡

発行日　2013年3月31日
編集
発行　古代文化調査会
住　所　〒658-0032　神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地125-1404
TEL　(078)857-6368
印　刷　真　陽　社
〒600-8475　京都市下京区油小路仏光寺上ル
TEL　(075)351-6034